

各学部・研究科におけるFD活動等実施状況調査表【2023年度活動報告】

主催	2023年度 FD・教学IR実施計画 (FDについて抜粋)	日時	全学 公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	(FDの区分)			参加人数
									教育	研究	社会貢献	
学修支援・教育開発 センター	計画以外のFD	2023年7月5日	○	オンライン (zoom)	本学教職員(非常勤 講師含)	生成系AIが教育現場にもたらす影響を 考える	佐野 彰 先生(先端理工学 部) 築地 達郎 先生(社会学部) 前田 哲宏 先生(文学部)	「Chat GPT」に代表される生成系AIは、メリットとデメリットを持 ち合わせています。教育現場においても積極的な活用方法や レポート作成におけるリスクにどのように対応するか等が随所 で議論されています。 今回のFD研修会では、生成系AIの仕組みや特徴の理解をはじ め、授業等における活用事例を紹介し、生成系AIが教育現場 にもたらす影響について、参加者でディスカッションを行います。	◎			72
	「教学マネジメントの実質化」に関するFD	2023年7月28日	○	対面・オンライン	本学教職員及び大 学関係者、高校関 係者	未来社会を担う「主体」をどう育んでいく か ー初等中等教育の学びから、高大接続 を考えるー	山下 真司 氏 (ベネッセ教育総合研究所 主席研究員 NITS独立行政法人 教職員 支援機構フェロー)	高校現場では2022年度入学の生徒から新学習指導要領に 則った教育が始まっています。全ての教科において「なぜその ような事象が起きたのか」という問いを立てて調べていくような 探究型に学習形態が変化しています。また、学習の面に限ら ず、生徒が主体的に行動できるようになることが求められてい ます。 高校教育で「主体的に」「多様な」「深い学び」「個別最適化さ れた学び」が展開されていくなかで大学教育はどのように対応 する必要があるでしょうか。今回、高等学校学習指導要領(平 成30年告示)総合的な探究の時間【解説】検討作成メンバーで ある山下真司氏を講師にお迎えし、教育をとりまく各省庁の動 きや高校における主体的・対話的で深い学びの取り組み例、初 等中等教育の学びと高大接続についてご講演をいただきます。 2025年度に新学習指導要領で学んだ生徒が大学へ進学して きます。それらを見据えたカリキュラム、授業の改善を考える機 会にしたいと思います。	◎			76
		2023年11月30日	○	対面・オンライン	本学教職員及び大 学関係者、高校関 係者	新学習指導要領での学び	榎本六秀 氏 私立純心中学校・純心女子 高校	高校の教育現場では、2022年度入学生から新学習指導要領に 則った教育が始まっています。全ての教科において「なぜその ような事象が起きたのか」という、問いを立てて調べていく」と いう探究型に学習形態が変化しています。 また、学習活動に限らず、生徒が主体的に行動できるよう、さま ざまな取り組みが展開されています。 今回、長崎県から純心女子高等学校教諭の榎本六秀氏を講師 にお招きし、「なぜ探究学習を必要としてきたのか」、「探究学習 を通して育てたい生徒像」について、ご自身の経験を交えなが ら実践事例をご紹介します。 併せて、龍谷大学付属平安高校からも探究学習の取り組み事 例をご報告いただく予定です。 2025年度に新学習指導要領のもとで学んだ生徒が大学へ進学 してきます。高校での取り組みを参考にして大学でどのように 活かすのか、高大連携をはじめ、新たなカリキュラムや授業の 改善を考える機会にしたいと思います。	◎			97
	計画以外のFD	2024年2月7日	○	オンライン	本学教職員	レポート課題で考えておくべきこと ー基本確認と生成AIとの兼ね合いー	島村健司氏 本学ライティングサポートセ ンター・スーパーバイザー	Chat GPTやGoogleのBardなど、生成AIの普及により、授業に おいてレポート作成の課題を学生に提示することへの不安や抵 抗感が生じているのではないのでしょうか。 この研修では、このような事態を踏まえて、まずは、レポート 作成の課題を提示するときに留意すべきことについて、アカデ ミック ライティングの観点から解説します。 そのうえで、参加者の皆さんと一緒に、生成	◎			45
文学部	データサイエンス教育に関するFD	7月12日	○	オンライン (zoom)	本学教職員(特任を 含む)	文学部生のためのデータサイエンス教育 について	崔 舜星 先生(心理学部専任 講師)	文学部では、2020年度より構想400アクションプランにおける リーディング学部事業として、積極的にデータサイエンス教育を 推進してきた。 今後の課題としては、新たに文学部生の興味関心を喚起し、各 専門の学びに結びつくような「文学部生のためのデータサイエ ンス」科目の設置を検討する必要がある。文学部の学生が自身 の専門領域に近いところにもデータサイエンスの考えを探り 入れることで、エビデンスが明確になり、かつ新たな視点を醸成 できる契機になるような科目を将来的に設置することができれば 有意義と考えられよう。 本FD研究会では、講師として2023年度より心理学部に着任さ れた崔舜星先生をお迎えして、データサイエンス教育とは何か、 また現代社会において求められているスキルとは何かにつ	◎			87
	心理学部の教学展開に関するFD	3月13日	○	オンライン (Teams)	本学教職員(特任を 含む)	心理学部の教育プログラム:3つの科目 から	小正 浩徳 先生(龍谷大学心 理学部心理学科准教授)	文学部臨床心理学科が心理学部として改組し一年が経った。 臨床心理学科の実績を基とした心理学部としての新たな取組 や意図を知ることとは、 文学部のさらなる学生教育の充実・検討に有意義であると思慮 する。 本FD研究会では、臨床心理学科から基礎演習を担当し、心 理学部においても「フレッシュャーズゼミ」を担当した小正浩徳准 教授をお迎えして、 「フレッシュャーズゼミ」、「データサイエンス科目」、「キャリア啓発 科目」の3つの科目について、 学生教育への思い、科目の位置づけ等をご教示いただき、当	◎			80
経済学部	・2019年度入学生を対象とした入試形態別の成績 等に関するFD	3月16日(土) 第22回 教授会 内	○	オンライン	本学教職員	2019年度4月入学生の入試形態別 成績調査結果ー2018年度生との比較 ー	石橋 郁雄	2019年度4月入学生の入試形態別成績の分析結果の報 告と情報共有を行った。	◎			43

主催	2023年度 FD・教学IR実施計画 (FDについて抜粋)	日時	全学 公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	(FDの区分)			参加人数
									教育	研究	社会貢献	
経営学部	・計画以外のFD	2023年11月8日 (水) 15:30～	○	オンライン (Zoom)	本学教職員	2023年度プログラム科目実施報告について	経営学部プログラム科目 担当者 (秋庭太准教授、眞鍋邦大 准教授、坂本雅則教授、 于健准教授)	【2023年度プログラム科目実施報告会】 経営学部では、2008年度以降、「現場で学ぶ経営学」をコ ンセプトとしたプログラム科目を開設し、 理論だけでなく実習教育も重視した教育を展開していま す。 今回の報告会では、プログラム科目の実施状況およびそ の学習効果について各担当者が報告し、 同科目の情報共有を図ることを目的とします。 【スケジュール(予定)】 15:30～ 「起業論B」実施報告 (報告者:秋庭 太 准教 授) 15:40～ 「地域と企業」および「ものづくりの現場」実施報 告 (報告者:眞鍋 邦大 准教授) 15:50～ 「現代中国のビジネス」実施報告 (報告者:坂本 雅則 教授、于健 准教授)	◎			12
		2024年1月26日 (金) 15:00～17:00	○	ハイブリッド 対面:5-503情報 実習室 オンライン:Zoom	本学教職員	合同型演習における合同報告会	経営学部 坂本雅則ゼミ3年生 濱田崇嘉ゼミ3年生	社会人基礎力をゼミで養成することを目指した経営学部 の合同型演習で義務づけられている「合同報告会Ⅱ」を実 施する。坂本ゼミと濱田ゼミのゼミ生(3年生)が下級生の チームワークに日常的にコーチングを行った結果から、ど のようなことをつかんだのかを成果報告する。	◎			7
国際学部	・悩みを抱える学生への接し方に関するFD	9月13日(水) 13:40～14:50	○	オンライン	国際学部専任教員	悩みを抱える学生への接し方につ いて―教員として可能な範囲の具体的 対応―	心理学部 心理学部長 吉川 悟 教授	近年、学生指導などの場面において、学力だけでなく様々 な精神的・心理的悩みを抱える学生に接する機会が増え てきたように感じる。学生によっては、悩みをかかえている ことから問題行動に出たり、学生生活に支障を来したり(も しくは、その境界にいる)ようなケースも見受けられ指導に 苦慮することがある。そのような学生に対し、教員として適 切に対応するための基本ガイドラインなどを事例を交えな がら学び、これからの学生指導に活かしていける学びの 機会とした。	◎			31
	・ハラスメントに関するFD	9月20日(水) 15:00～16:25	○	オンライン	国際学部専任教員	ハラスメントを黙認、黙過することの 責任について―本学ハラスメント防止 規定の下でのあるべき対応―	ハラスメント問題委員会委 員長・法学部 越山 和広 教授	全学ハラスメント問題委員会は、ハラスメントに関する啓 発活動や制度 の整備などを通じて、ハラスメントの当事者とならないた めの活動を主と して行ってきたところである。 しかしながら、自身がハラスメントの当事者にならなかった としても、 ハラスメントが生じていることを第三者として知ったりする など間接的に 他者のハラスメントに関わってしまう事象が発生すること がある。そのよ うな場合、どのように対応すべきかを学ぶ機会を提供し	◎			24
	・シラバスの書き方に関するFD	12月20日(水) 15:00～15:40	○	オンライン	国際学部専任教員	シラバスの書き方について	出羽 孝行 教授(本学学 修支援・教育開発センター 長/教学企画部長/文学部 教授)	シラバス作成の手引きについて、シラバスの役割や「教員 視点」「学生視点」についてお話しいただくとともにシラバス の整備と教育の質保証について、ご講演いただいた。	◎			27
先端理工学部		7月12日(水) 14:30～15:00	○	瀬田キャンパス1号 館619会議室	本学教職員	ASEAN地域で実施するグローバル教育 プログラム	宮武 智弘 (先端理工学部応用化学課 程 教授)	龍谷IP事業として推進している、ASEAN地域で行う海外研修型 グローバル教育について報告する。ベトナムに進出している日 系企業に協力を仰ぎ、ベトナムの大学生と本学学生が共同で 企業の課題解決に取り組むPBL学習の様子や、受講生の成長 をPROGテストを通じて確認し、以後の学修につなげる取り組み について紹介する。また、コロナ禍で海外渡航ができない期間 に取り組んだオンライン型の海外研修の実施方法やその学習 成果についても紹介する	◎			81

主催	2023年度 FD・教学IR実施計画 (FDについて抜粋)	日時	全学 公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	(FDの区分)			参加人数
									教育	研究	社会貢献	
社会学部	・計画以外のFD	2023年10月4日 (水) 15:15～16:15	○	ハイブリッド	本学教職員(非常勤を含)	仏教社会福祉における公共性	井川裕寛・上智大学大学院実践宗教学研究科特別研究員・高野山真言宗叡楽寺(奈良市)住職	『近代日本の仏教と福祉 公共性と社会倫理の視点から』法蔵館、2023年の執筆者に社会学部移転にも関連する公共性についてご講演をしていただく。	○	◎	○	20
		6月14日(水) 15:15～15:45	○	オンライン開催 (Teams)	本学教職員(非常勤を含)	2023年度社会学部新規着任教員の研究内容について	春名 苗(現代福祉学科教授) 中谷 昇(社会学科教授) 山口 浩次(現代福祉学科教授)	「龍谷大学における研究に関するFD」の定義において、具体例として「教員集団・教員個々人が日常的に行う研究活動の活性化・研究力の向上のための活動」があげられています。社会学部では、教授、准教授または講師として新規着任した先生方から自身が取り組む研究内容の報告をいただくことで、学部内の教員が個々でおこなう研究活動はもちろん、教員が共同して取り組む研究活動を活性化し、研究力を向上させることを目的にFD報告会を開催いたします。		○		47
		7月26日(水) 15:15～15:30	○	オンライン開催 (Teams)	本学教職員	2022年度研究員による研究活動報告について	高岡 智子(社会学科准教授)	今年度は、専任教員としてお迎えした春名苗先生(現代福祉学科教授)、特別任用教員としてお迎えした中谷昇先生(社会学科教授)と山口浩次先生(現代福祉学科教授)に「龍谷大学における研究に関するFD」の定義において、具体例として「教員集団・教員個々人が日常的に行う研究活動の活性化・研究力の向上のための活動」があげられています。社会学部では、研究員規程に基づく研究員として研究活動を行った先生方から研究内容の報告をいただくことで、学部内の教員が個々でおこなう研究活動を活性化し、研究力を向上させることを目的にFD報告会を開催いたします。今回は「文化衝突がつくるポピュラー音楽-冷戦期以降のドイツ文化に関する音楽社会学研究-」をテーマにポツダム・ライプニッツ現代史研究所(ドイツ)にて研究された高岡先生にご報告いただきます。		○		46
農学部	「IRコンソーシアム学生調査」の分析および「農学部5期生の学修状況」および「アセスメントプランによる学修成果・教育成果検証結果報告」についてのFD	10月25日	○	オンライン開催 (Teams)	本学教職員	農学部5 期生の学修状況/大学IR コンソーシアム学生調査結果(2022 年度入学生対象)/アセスメントプランによる学修成果・教育成果検証結果報告	山崎 正幸 教授(農学部教務主任/農学部FD委員長)	1.農学部5期生の学修状況について、学科別、入学区分などから、単位の取得状況、GPA などを検証する。 2.大学IRコンソーシアム学生調査(2022 年度入学生対象)の集計結果に基づき、農学部各学科、本学各学部、大学IRコンソーシアム参画大学のデータの分析をおこない、教職員による意見交換を通して農学部の教育改善に向けた検討をおこなう。 3.アセスメントプランによる学修成果・教育成果検証結果報告を行う。	◎			48
農学部 農学研究科	〈学部・研究科共同開催〉 2023年度農学部・農学研究科における進路実績報告に関するFD	6月14日	○	対面 9号館2F大会議室	本学教職員	2023年度農学部・農学研究科における進路実績報告	キャリアセンター 藤崎 智史 氏	農学部四期生及び農学研究科三期生の就職状況の結果分析や学科毎の進路業種の傾向などをキャリアセンターから報告する。 また、現在行っている4 年次生の進路希望調査の結果についても学部・研究科内で共有し、今後の就職支援の方策などを考える機会とする。	◎		○	43
	龍谷 食と農のサイエンスセミナー	9月27日	○	対面 9号館2F大会議室 (オンライン配信検討)	本学教職員 農部生・農学研究科生	龍谷食と農のサイエンスセミナー	三柴啓一郎(農学科教授) 鈴木太朗(農学部食品栄養学科講師)	タイトル:植物における小胞体ストレスセンサーIRE1の役割について 報告者:三柴啓一郎(農学科教授) 内容:小胞体ストレスは小胞体内で異常なタンパク質が蓄積した状態で、小胞体ストレス応答はこれを感じて緩和します。本研究紹介では、小胞体ストレスセンサーであるIRE1の植物における役割について、演者らがこれまでに取り組んできた研究を紹介します。 タイトル:テラーメイド栄養学の確立に向けた生活習慣と遺伝的因子との関連について 報告者:鈴木太朗(食品栄養学科講師) 内容:生活習慣と疾病リスクとの関連は様々な疫学研究で示され、また近年、遺伝子の一塩基多型(SNP)をヒトゲノム全体に対して解析するゲノムワイド関連解析法(GWAS)による研究が進み、食習慣などの生活習慣と遺伝的因子との関連について取り扱いたいと思います。	○	◎	○	47
短期大学部	計画以外のFD	9月20日	○	対面	本学教職員	2022年度「大学生生活の意識に関する調査」	心理学部教員	大学生生活の意識に関する調査において、龍谷大学の学生を対象に入学後の適応について研究されている小正先生に研究の進捗について伺う。特に、大学生の中途退学に関する心理的要因などを明らかにするために、大学適応感尺度を用いて質問紙調査を実施し、その結果、現段階では短期大学部は「大学帰属感」「学ぶ満足感」「教員サポート感」をより感じられる対応をさらに展開すると、中途退学予防効果をもたらすと考察されている。 この結果をもとに、個々の学生への教育支援を充実させより快適な大学生生活環境を提供するためにはどのようなことが必要か、今後の全般的な教育支援のあり方について短期大学部教員の中で検討する。 ※学修支援・教育開発センター自己応募研究プロジェクト(小正プロジェクト)の中間報告会をかねて実施	◎			17

主催	2023年度 FD・教学IR実施計画 (FDについて抜粋)	日時	全学 公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	(FDの区分)			参加人数
									教育	研究	社会貢献	
実践真宗学研究科	・社会課題への宗教者としての取り組み先行事例に学ぶFD。	12月13日(水) 11:40～12:40	○	オンライン開催 (Zoom)	本学教職員	仏教チャプレンが関わった事例から多職種連携について考える	岩井 未来 教授 (実践真宗学研究科)	実践真宗学研究科では「臨床宗教師・臨床傾聴士研修」課程を設置するなど、宗教者として全存在をかけて人々の苦悩や悲嘆に向き合い、そこから感じ取られるケア対象者の宗教性を尊重し、病院、社会福祉施設、地域社会、被災地などの公共空間で実践可能な「スピリチュアルケア」と「宗教的ケア」の理論と臨床実習を教育・研究している。そうした中で現在課題となっているのが、多職種との協働と という問題である。今回の報告会は、看護師並びにチャプレンとして臨床経験をもつ岩井教授から、経験に裏付けられた事例を紹介いただき、今後の課程関連科目のさらなる充実を探ることを目的とする。	◎			15
経済学研究科	修士課程英語プログラム【English-based Degree Program】の展開と課題	2024年2月9日 (金) 15:00～	○	オンライン	本学教職員	修士課程英語プログラム【English-based Degree Program】の展開と課題	大原 盛樹教授(経済学部)	英語で経済学修士号が取得できるEnglish-based Degree Program(EBDP)が経済学研究科で発足して2年半が経とうとしている。アフリカから2名のJICA研修生を受け入れ、今年4月にはキューバから文科省国費留学生1名が入学する予定である。グローバルサウス諸国を中心に入学希望の問い合わせは多い。英語のみで学位を与える専門プログラムとして本学で整備された最初期の仕組みの一つであるが、実施を通じて顕著になった課題は数多い。経済学研究科の特質に起因する問題もあれば、英語学生については専ら交換留学生の受け入れを想定してきた本学の海外留学生受入体制の足りない部分も見えてきた。本報告ではEBDPの最初の2年間の成果と見えてきた諸課題について紹介し、原因と改善策を探る。	◎			40

主催	2023年度 FD・教学IR実施計画 (FDについて抜粋)	日時	全学 公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	(FDの区分)			参加人数
									教育	研究	社会貢献	
国際学研究科	・計画以外のFD	11月1日(水) 12:40~13:30	○	オンライン開催 (Zoom)	本学教職員	サビエンス史の不穏な現在－自然主義的人間観の変容と課題	鈴木 滋(教授・国際文化学専攻)	サビエンス史とは、数千年前にアフリカで出現した新人が、旧大陸で旧人との交雑を経て、ヨーロッパ・アジアに広がり、南北アメリカに至る世界に分布を広げた歴史を指す。 近年の急速なDNA研究の進展は人類進化の基本イメージを一新し、新人は、ネアンデルタールなどの旧人と交雑をしつつ置換したこと、また、世界中に分布を広げた狩猟採集民は、後発の農耕民に置換されていたことを明らかにしている。さらに、現代人は、自己家畜化によって、行動や社会の寛容性を高めたとする仮説が有力視されつつある。一方、これらの人類学による自然主義的人間観の変容は、深刻な差別につながりうることを指摘する。	○	◎		23
		11月8日(水) 12:40~13:30	○	オンライン開催 (Zoom)	本学教職員	Left behind places: nativism, populism, and the geography of discontent	Jonas Suchanek (Charles University, Research Fellow / 国際学部客員研究員)	Since the refugee 'crisis' of 2015 and 2016, many European countries have witnessed an unprecedented surge in nativist and populist attitudes. As a result, numerous anti-immigrant parties and movements have come to power, while nativism and populism have become increasingly mainstreamed into political and media discourses. However, there remains a significant gap in the literature, primarily focusing on Western European countries and utilizing global regression models with limited explanatory value – in cases where aggregate data such as electoral outcomes are analyzed. To address these gaps, my research employs a geographical perspective to explore the dynamics of nativism, populism, and electoral discontent in the Central and Eastern uropean region, specifically in Czechia and Slovakia. This approach allows for the application of a theoretical framework centered on 'left behind places' and benefits from the use of spatial regression methods. In my presentation, I will first discuss the nuances of nativism and populism across different European countries in the light of the 'left behind places' conceptual framework and then share concrete findings of my research conducted for my dissertation.	○	◎		11
		12月6日(水) 12:40~13:30	○	オンライン開催 (Zoom)	本学教職員	Motivations to study abroad in East Asia among Central European students	デブナール ミロシュ(国際学部)	本発表では、2022年度に中央ヨーロッパ三か国(オーストリア、チェコ、スロバキア)で実施した東アジア専攻(日本、中国、コリア)の大学生調査の結果について報告を行う(共同研究者:Wolfram Manzenreiter、ウィーン大学)。 本調査では、主に留学動機について692名のアンケート調査及び8グループ27名のフォーカス・グループ・インタビューを3か国4大学において実施した。 留学の動機は経済的な観点から説明されることが多いが、本報告ではこのような観点を俎上に載せ、留学動機の多様性または社会的に構築される留学動機の性質を強調する。 なお、本報告は日本語で実施するが、英語の資料を使用する。	○	◎		20
		12月20日(水) 12:40~13:30	○	オンライン開催 (Zoom)	本学教職員	ジャンル・アプローチを取り入れた英語ライティング研究を振り返る(システムテックレビュー) : North American New Rhetoric Studies (NR), English for Specific Purposes (ESP), and Systemic Functional Linguistics (SFL)	長尾 明子(国際学部 グローバルスタディーズ学科)	本研究の報告者は、日本人大学生を対象に、ジャンルアプローチを導入した英語ライティング授業を展開している。ジャンルアプローチを導入した英語ライティングには、3つの核となるフレームワークが存在する: North American New Rhetoric Studies (NR), English for Specific Purposes (ESP), and Systemic Functional Linguistics (SFL).本研究では、systematic review を用いて、これまでの NR, ESP, SFLに関する英語ライティング研究にどのような傾向があるかを明らかにした。2006年から2023年にかけて出版されたジャンルライティング研究に関する430の研究論文及び博士論文が分析対象となった。その結果、NRを中心としたジャンル研究は理論拡張のための研究が多く、ESPIによるジャンル研究の傾向はコーパスを利用したアカデミックテキスト分析に関する研究が多く、SFLによるジャンル研究は多様な研究対象者・データセット・データコーディング方法が見られた。	○	◎		19
		1月17日(水) 12:40~13:30	○	オンライン開催 (Zoom)	本学教職員	超芸術トマソンにおける「他力思想」及び「日本的」美意識について	カルドネル シルヴァン 国際文化学科 教授	研究テーマは、赤瀬川原平(1937-2014)が提唱した「超芸術トマソン」における「他力思想」および「日本的」美意識に焦点を当てたものです。具体的には、超芸術トマソンの概念の確立とその芸術の哲学史上の位置づけ、トマソンの理論的評価と美学的評価、さらにはトマソンが持つ宗教的側面にも注目しました。	○	◎		22

主催	2023年度 FD・教学IR実施計画 (FDについて抜粋)	日時	全学 公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	(FDの区分)			参加人数
									教育	研究	社会貢献	
社会学研究科	・キャリアや進路に反映できる学習成果の可視化を実施するためのFD□	10月25日(水) 15:15~16:15	○	瀬田学舎6号館プレゼンテーション室	本学教職員	「大学院修了後のキャリアモデルの提示とキャリアパスの可視化 ～留学生への就職支援を踏まえて～」	大隅 要 氏 株式会社ロジックアンドサブライズ 代表	2023年度社会学研究科(修士課程・博士後期課程)における教学展開上の重点政策としている「大学院修了後のキャリアモデルの提示とキャリアパスの可視化」について、キャリア支援の専門家を招いて講演会を開催する。社会学研究科に留学生が多く在籍する状況を踏まえて、修士課程・博士後期課程を終えた留学生のキャリア支援についてもフォーカスした内容とする。	◎	○	○	11
農学研究科	・ICTを活用した教育研究における検証 ・魅力ある教育プログラム(大学院入学者増加に向けた取組)の検討	12月13日(水) 15:15~16:15	○	瀬田キャンパス9号館2階大会議室	本学教職員	大学教育(学部・研究科)における生成系AIの活用について	南條 浩輝先生 (滋賀大学データサイエンス学部 教授)	生成系AIをいかに学部及び研究科の教育に使うのか、学生に生成系AIをうまく使わせるには、 といった、教育現場における積極的な活用方法やリスクなどをお話いただきます。	◎			41
教養教育センター		10月13日(水) 17:00~18:15	○	深草学舎22号館303教室 Zoom	本学教職員	実践報告:生成系AIに探りを入れてみる	田口律男氏(経済学部教授)	教養教育・人文科学系の授業において生成系AIをどのように活用することができるのか、その実践報告に基づき、皆様と意見交換できれば幸いです。	◎			10
		2月21日(水)	○	対面 オンライン併用	本学教職員	「人文科学系教養教育における生成系AIの活用法の検討」第2回研究会	藤原崇人氏(文学部准教授) 妻木進吾氏(経営学部准教授)	本FDプロジェクトでは下記の通り研究会を開催致します。 教養教育・人文科学系の授業において生成系AIをどのように活用することができるのか、その実践報告に基づき、皆様と意見交換できれば幸いです。多数のご参加をお待ちしております。	◎			7
教養教育センター グローバル教育推進センター		2月27日(火)	○	深草キャンパス和顔館マルチリンガルスタジオ	本学教職員	第7回 龍谷大学JEP Kyoto&留学生別科 実践報告会	久保田 美子氏 (早稲田大学 日本語教育研究センター)	JEP Kyoto(Japanese Experience Program in Kyoto)及び留学生別科新プログラムのスタートと共に始まった本報告会も、7回目を迎えました。 新型コロナウイルスの流行により対面での開催ができずにおりましたが、久しぶりの対面開催となります。今回は、早稲田大学の久保田美子先生をお招きしてご講演いただきます。 この機会に、お互いに培ってきた知見を共有し、建設的な意見交換を通じて両プログラムの更なる発展につなげたいと思います。	◎			19
障がい学生支援室		7月19日(水)	○	龍谷大学深草キャンパス21号館302教室	本学学生・教職員 一般の方も参加可	フォントが変われば 授業・大学が変わる！ ～明日から使えるUDフォントの活用方法～	高田 裕美 (株式会社 モリサワ)	書体により文字の「読みやすさ」が大きく変わり、学習や生活に不自由を強いられている人々がいる。「誰一人取り残さない書体」とは？ 「文字のユニバーサルデザイン」に奮闘し、「UDデジタル教科書体」を開発した今話題の書体デザイナー高田裕美さんのお話から、授業や大学のユニバーサルデザインを考えます。	◎			100